

ナパサ 狭いスタジオでも
電波は広く遠くまで!



とっげき 突撃! 地元のラジオ・テレビ局

身近な情報の発信基地

えすしーえぬ SCN 手作りスタジオに
感激!

わたしたちは、湘南平塚コミュニティ放送 (ナパサ) と湘南ケーブルネットワーク (SCN) を取材しました。そして番組にも出演しちゃいました。

豆記者
伊東 真由子 鎌川 晴南



わたしたちは、今までラジオの放送局が駅前のビルにあるなんて、ちょっと知りませんでした。もちろんスタジオに入ったのも初めて。だからドキドキワクワクの取材です。ナパサは、平成六年に生まれて、今年で開局十一年になるFM放送局。ちょうどわたしたちと同じくらいの年齢です。ラジオのFMダイヤルを78・3にあわせると聴くことができます。ナパサという名前は、そのダイヤルの数字(78・3)からとったものだそうです。ナパサの放送が聴けるのは、平塚を中心に、東は藤沢、北は寒川、厚木・伊勢原・秦野そして西は二宮までと、とっても広くて驚きました。ナパサの事務所には、数え切れない



音楽CDがいっぱい

SCNがあるのは、MNビルの十階。エレベーターを降りてすぐ目の前。入り口だけ見ると、放送局というよりは普通の会社みたいです。思っていたより、たくさんの方が働いていてびっくり。



モニターがたくさんあるね

SCNでは最初に「サブ」という調整室に案内してもらいました。この部屋には、たくさんスイッチがついた機械やテレビモニターがいっぱいあって、とても狭く感じました。でも、「サブ」にある窓ガラスからは、スタジオの中の様子がよく見えました。スタジオには、カメラやいろいろな道具、そしてきれいに作られたセ

いほどたくさんCDがあつてびっくり。スタジオは意外に狭い部屋で、大きな時計が目につきました。ラジオは時間どおりに放送しなければいけないので、話している人にも時間がかかりとわかるように大きな時計がかけられているそうです。



聴こえる、聴こえる

スタジオにはミキサーという機械がありました。ミキサーというのは、いろいろな音楽や話し声などの音を混ぜたりする機械です。実際にヘッドホンで聴かせてもらいましたが、スイッチひとつで、話し声だけになったり、音楽だけになったり、とっ



ねえー、けっこう重いよ

ットがあつて驚きました。スタッフの人たちみんなの手作りだそうです。また、スタジオには照明がたくさんあって、すごく暑いところでした。(あとでカメラを持たせてもらいました。すごく重かったです。外で撮影するときは、それをかっついていくそうで、大変だなあと感じました。)

SCNでも番組に出演しました。リハーサルという練習もしてバッチリ……と、思いきや、5、4、3、2、1 スタッフの掛け声がかかり、本番が近づくとつれて、やっぱり緊張してしまいました。それでもアナウンサーの磯さんがやさしくリードしてくれたので、話したいことを全部しゃべることができました。

でも不思議な機械でした。駅前のスタジオを見学した後、わたしたちはOSC湘南シティオーブンモールに行きました。実はナパサにはスタジオが二つあります。一つは駅前のビルにあるスタジオ。そしてもう一つがOSC湘南シティのスタジオです。このOSCのスタジオで、番組出演をさせていただきました。スタジオは、まわりがガラス張りです。外から丸見え。外を歩くみんながジロジロ見ます。はずかしい……。でも番組が始まると、DJの小泉さんと話しが盛り上がり、出番はあつたという間に終わっちゃいました。とっても楽しかったです。



ドキドキの生放送

ラジオもテレビも時間どおりに放送しなければいけないので、裏側では本当にいろいろな仕事をしていました。また地元の放送局として、大きな放送局では放送できないような、身近な話題やイベント情報などをたくさん取り上げていました。

みなさんも地域の情報は、ナパサやSCNで、チェックしましょう。

